

第5回「協働のまちづくり部会」会議録

日時：平成17年2月11日（金）

午前10時10分～午後零時15分

場所：市役所7階行政委員会室

出席委員

- 1号委員 田中喜佳
2号委員（各種団体） 芝本清一、常石宜子、溝端繁
2号委員（公募） 太田寿忠、木之下純子、白木直子、村上いつ美、横谷卓也
3号委員 久隆浩（部会長）
4号委員 藤進

欠席委員

- 1号委員（各種団体） 柳田吉範
3号委員 田中晃代
4号委員 神田経治

事務局

- 企画総務部企画経営室企画グループ主幹：中野隆夫
企画総務部企画経営室企画グループ：小池悟史

(株)日本総合研究所

高橋秀文

【中野企画グループ主幹】

それでは、協働のまちづくり部会を開催します。本日は、河内長野市総合計画審議会の協働のまちづくり部会委員の皆様におかれましては、何かとお忙しい中、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日の出席状況でございますが、田中副部会長、神田委員、柳田委員につきましては、ご欠席と承っています。

さて、本日ににつきまして、お手元に会議次第、それと、第4回部会の会議録（案）につきまして、配布させていただいております。よろしいでしょうか。

それでは、久部会長、よろしく願いいたします。

【久部会長】

おはようございます。それでは、前回に引き続き、基本構想の素案の議論をさせていただきたいと思います。一応、部会としては、本日で最終ということで、あとは全体の審議会で、この構想を最終的に皆さんと議論をしていただくということになります。

前回、全体を見通していただきまして、ご意見いかがでしょうかというお話をさせていただきましたけれども、本部会としては、概ね、この素案でいいたろうというようなことであったのですけれども、前回、残りの時間で、重点施策、あるいは、基本計画につながるような、より具体的な話をさせていただいたのですけれども、また、今日も、この構想を受けて、どのようなことを重点的にお願いをしたいかという、基本計画につながるようなお話をさせていただきたいと思うのですが、その前に、もう1度、また、帰って読んでいただいて、この基本構想の全体で、「この文言を変えてください」とか、あるいは、「こういう記述を増やしてください」というようなことはございますでしょうか。大体よろしゅうございますか。

それでは、私どもの部会は、一応、この素案で概ね結構だということで、全体に諮らせていただきたいと思いますと思うのですけれども、先ほどもお話ししましたように、前回の続きで、もう少し、「こういうところを重点的に今後10年、市の方に考えていただきたい」、あるいは、「市と市民と一緒にやっていきたい」ということで、1時間強、議論をさせていただきたいと思うのですが、どうでしょうか。うちは、一応、「協働のまちづくり」という名前が付いていますけれども、それ以外のところでも結構です。観光の話、あるいは、産業の話、教育の話、何でも結構ですけれども、何かこの10年間で、「こんなことを取り組めたらいいな」というような話がありましたら、何か、いただけたらと思うのですが。この前、協働のお話は沢山出ましたけれども、その続きでも結構です。はい、どうぞ、木之下さん。

【木之下委員】

先ほど、素案のところでは概ねということだったのですけれども、改めて読んでみて、歴史的な色々なものが沢山、重要文化財とか、そういうようなものが、このまちの中には沢山あるということで、最初のところにはそのように書いてあると思うのですけれども、そういうようなものの利用とか活用とかいう部分をどこかに。緑のところについては、澄んだ空気とか豊かな自然環境とか、そういう風なものを、「調和と共生のまちづくり」ということで、入ってきていると思うのですけれども、そういったことを含めてという部分がどこかで、文字的に表れていたらいいかなというのが、少し気が付いたところなのです。

それを含めてなのですけれども、「協働のまちづくり」というところで、どちらかというと、今は、大人の視点で組まれていっているのです、どこか、子育てとか人づくりとかそういう風なところで、それは基本計画にもつながるので、その辺りに入れるのかなと思うのですけれども、子どもの持っている力とかそういう風なものを引き出して、また、

それを活かすという風な部分が、基本計画の中に打ち出されていくのがいいのではないかと少し感じています。

今、色々なところで取り組みが行われていて、子ども達が小学校 5、6 年生になると、まちを調べて、素晴らしい新聞をつくったりとか、そういう風な部分を、学校教育の中で大いに取り組んでいただいている部分があって、市役所の下のところなどでも、この前も、色々な発表とかをしていて、あれは「いいことだな」、「すごく素敵だな」と思っ
て見させていただいたのですけれど、そういうようなところに、私達大人というか、これからの活動人口が増えるという、そういう風な部分も利用するような仕組みとか、そういう風なものをどんどん入れていって、やはり、まちづくりというのは、全体を含めた協働体制というのが必要なのかなと、少し思ってきました。

【久部会長】

ありがとうございました。具体的に、先ほどの文化資源の活用とか子どもの力を引き出すのに、こんなことをやったらいいなというアイデアはありますか。それがわかれば、どこに入れたらいいのかというのが、よりわかりやすくなるかと思うのですけれども。

【木之下委員】

例えば、自然環境とかそういうようなものを守っていくとかというのは、やはり、知って、それで親しみを持ってということで、そこに、私が今朝、犬の散歩の時に、セリとナズナとホトケノザとハコベを摘んできましたけれども、こういう風なものが足元にあっても、それがわからない。そうすると、スーパーで買わなくてはいけなくなるし、スーパーで買って利用したとしても、それがどのようなところに生えているのだとか、そういうようなことを知った上で、そのいわれとかについてもわかってくると、面白くなって、研究とかそういう風なことにもつながっていくし、やはり、自然を大切にしようというところで、自然に目を向けるということにもなっていくと思うのです。

河内長野市でも、そういうような身近な里山が沢山あるから、そういうことを一緒に利用していくという、子ども達とも一緒に。それも、学校だけに任せるのではなくて、地域の自然保護協会とか色々あるのですね、河内長野市にはね。そういう風なところも活用しながら、そういう風なデータとかを沢山持っているの、河内長野市はそういうことには今まで、非常に力を入れてきていて、文化財の調査も非常に進んでいるし、先に自然のことから言えば、そういう風な部分を大いに活用していったらいいと思うのです。

山についても今回、水の保全ということで、河内長野市が、昨年だったか、千石谷というところを購入しました。そういう風なところも、市民が親しみを持って、「自分達の山だよ」というように、これは本当に、大人だけではなくて、子ども達にも、学校教育

だけではなくて、地域の人たちも一緒に入って勉強したりとかする場になっていくような形の仕組みをつくってあげればいいのかと思うのです。

それから、先ほど言った文化財についても、最初の方に書いていますように、重要文化財は、数だけでいうと、日本で一番沢山あるのではないかといい、大阪府下でも一番あるのではないかと思いますし、データでもそうなっていると思いますけれども、そういう風なところにも、徐々に、文化財を案内する人たちを市の方でも養成されつつあるので、そこにも、子ども達の案内とかも含めて、子ども達がどんどん入っていただけるような仕組みをつくってあげればいいのかと思うのです。ですから、「地域全体で子ども達を育てているよ」ということになってあげればいいのかと思う風に、少し考えています。

【久部会長】

ありがとうございます。今のお話は多分、15 ページの<重点施策 2>の非常に大きな柱です。<重点施策 1>の内容にも関わるかと思うのですけれども、ここは多分、事務局としてはこれから、この書きぶりを充実させていくということになりますよね。

【中野企画グループ主幹】

そうですね。

【久部会長】

今の木之下さんのお話を聞いて、15 ページの<重点施策 1>、<重点施策 2>、<重点施策 3>を事務局が文章化していく中で、どういう風なアイデアを盛り込んでほしいかということ、少し議論させていただくと、事務局なりにも書きやすくなるでしょうし、我々の思いもここに入ってくるかなと思うのです。

前は、<重点施策 3>「協働の仕組みの確立」のところのお話を、少し時間をいただいてやってみましたので、しばらくは、この<重点施策 1>、<重点施策 2>、<重点施策 3>を集中的に、「こんなところに書き込んでほしいな」というようなお話を、意見交換させてもらえればと思うのですが。

先ほどの木之下さんのお話を聞きまして、約10年ぐらい前に、文化庁と一緒に、文化のまちづくりの研究をしばらくやったことがあるのです。その時に、文化庁にもお願いをしたのですけれども、従来の文化庁の役割というのは、芸術文化と歴史文化を重要視するという話が多かったのですけれども、もう1つ、極めて重要な生活文化というのがあるでしょ。そして、その生活文化をもっと見直して位置付けていき、育てていくような施策を文化庁にお願いをしようということで、文化のまちづくりのパンフレットをつくったりしたことがあるのですけれども、多分、先ほど、木下さんがおっしゃった話のかなりの部分は、生活文化だと思うのです。どうしても、「文化」というと、芸術文

化と歴史文化が表に出されるのですけれども、逆に、生活文化というのがおろそかになっているのですが、今後 10 年でもう 1 度、河内長野の方々が築いてきた生活文化を見直して、その力とかストックを活用しながらまちづくりを考えていく、あるいは、子どもの教育を考えていくような、そのような施策を展開出来ないだろうかというような、そのような位置付けで、多分、<重点施策 2>のところに書き込んでいただくと、より整理が出来てわかりやすくなるのかなと思って、聞かせていただいたのですけれども。

他の観点でも結構ですが、あるいは、先ほどの話の延長の話でもいいのですけれども。

【木之下委員】

もう少しだけいいですか。先ほど、生活文化ということで、いい言葉だなと思ったのですけれども、私も少し考えたのですけれども、「環境」という言葉がよく書かれているのですけれども、つい、自然環境ということだけになっているのですけれども、この「環境」というのは、私達が生きていく全ての周りのものを、私は「環境」という形で捉えて、色々な活動をしているのですけれども。だから、自然環境とか文化環境、それから、もちろん、人間環境とか都市環境、結構そういう風なものが、河内長野市を見回すと元々あるんですね。あるものを活かすということが、これから、掘り起こして活かすという、今回の第 4 次総合計画の前の方に書いてくださっていますけれども、そういう風な部分を利用しながら、子育てとかと。子どもも育ち、また、市民も育つということで。

協働のまちづくりをするためには、私もそうなのですから、もう少し前の世代では、やはり、それぞれの地域の市民力といったものが、もっとあったかと思うのですけれども、今は、結構そういう風な部分が、少し薄くなっている部分があるのではないかなと思うのです。だから、そういう風なものを育てるためにも、子どもを中心にしながら、もちろん、そうすれば、お年寄りも頑張る場所が出てくるというのか、そういう風な部分になってくると思うので、今回、第 4 次総合計画のところでは、やはり、人口のことも考えながらですから、「子ども」というものをキーワードにしながら行くのもいいのではないかなと、第 4 次総合計画を読み直しながら、もう 1 度、考え直してみたいのですけれども。

【久部会長】

ありがとうございます。いかがでしょうか。この前、横谷さんに、箕面の橋本亭の話をしていただいたのですけれども、先ほどの木之下さんの話の延長上に、その話もあるのかなと思うのですが。実際に、橋本亭という、明治の 3 階建ての旅館を改装した新しい市民の拠点、市民のギャラリーに使ったり、カフェに使ったりしているのですけれども、その辺りの、うまくいっているところとか、この辺りが課題だなというところを、少し皆さんにご紹介いただくと、河内長野でも可能性があるのか、ないのかという話に、より具体化するかと思うのですけれども、どうでしょうか。

【横谷委員】

そうですね。まず、うまくいっている点なのですが、色々なまちづくりをしている団体が、箕面都市開発が常駐しているのです、今は。そこに、絵画をされている方とか、地域の清掃活動をされている方とか、色々な活動をされている方が集まってこられて、その場で交流、話が出来るとというのが一番成功しているところかなと。実際に、先ほどお話を挙がっていた小学生などに大掃除に来てもらったりして、あと、橋本亭では、地域通貨が使えるようになっていまして、ボランティアで掃除をしていただいた方に、地域通貨をお礼という気持ちを込めてお渡ししたりして、つながりが地域通貨で循環しているというか。まだ、あまりうまくはいっていないのですけれども、そういうところがうまくいっている点かなと思います。

あまりうまくいっていないというか、進んでいない点は、保全、運営していくのにお金がかかるという点で、部屋代をとるのですけれども、それをなかなか理解していただけないというのが苦しい点です。以上です。

【久部会長】

ありがとうございます。なぜ、そのお話をしていただいたかということ、ある意味で、何か拠点があって、そこで色々な施策がされて、市民の方々も協力しながら運営していくというのは、とてもわかりやすくいいかなと思うのです。あちこちでやるよりも、「橋本亭で集中的に皆で頑張ってみようよ」というようなことにした方がわかりやすいので、もし、この10年間の中で、河内長野でそのような拠点があって、その拠点も歴史的なもので、その保全も出来るというような、何か、いくつかの目的が1つで実現できるようなところがあってもいいかなと思うのです。どういうところが使えるのかということについては、また、皆さんに教えていただきたいのですけれども、今、市民活動センターの構想がありますけれども、うまくいけば、そういうお屋敷が市民活動センターになって、そのお屋敷も守るし、市民の方々がぶらっと来られるし、白木さんがずっとおっしゃっているように、行きたくなるような魅力的な施設になったらいいなと思いますし。それから、先ほどお話があったように、ぶらっと行けるようなサロンがほしいという方はそこに行けばいい。それから、ギャラリーとかミニコンサートとか、小さな活動拠点がほしいという方は、それも活用出来るというような。おまけに、歴史資源を守れるというような、3重も4重も出来るようなアイデアが、河内長野でもどこかに出来たらいいなと思うのです。逆に、それを1つ1つ別にやるよりも、集中的に皆がやっていったらいいと思うのです。地域通貨という新しい試みも、橋本亭で実現出来ているとか、あるいは、逆に、先ほどお話があったように、でも、やはり、市民はタダの方がいいということで、お金を払ってくれないというところがあって、それは数千円でもお支払いすることで、その建物が守られるというような理解を一緒に求めていかなければいけない

と思うのですけれども。そのようなアイデアが、もし、河内長野であれば。あるいは、事務局の方でも、「このようなところが活用出来るのではないかな」というアイデアを、どなたからでもいただければ、より具体的に、この重点施策の中で見えてくるのではないと思うのですけれども。何かないですかね。

より具体的にこの重点施策の中でも見えてくるかと思うのですけれども。何かないですかね。

個人的にやられているのは、この前、白木さんがおっしゃっていただいた、天野酒の西條合資会社さんなどが、個人の力量で近いことをやっていますよね。

少し話が脱線しますけれども、数年前に、私の研究室に河内長野出身の学生がいました。天野酒の社長さんにヒアリングをさせていただいて、調査をさせていただいたことがあるのですけれども、社長さんいわく、10数年前は1度、全国展開を図ったのだけれども、それである程度有名になって、資金的にもいいようになったのだけれども、ふと考えた時に、「やはり、私は河内長野で酒をつくって売ることが自分の仕事ではないか」ということに気が付いて、全国展開をやめて、この近隣だけで、もう1度、やりなおしたいのだという話をしてくださったことがあるのですけれども、それを聞いて、私もある意味で、「ああ、なるほどな」と思ったし、感動したのですけれども、全国展開をしても大丈夫な方が、敢えて全国展開をやめて、この地域にこだわってやっておられるというのは、すごいなと思いましたので、そういう輪をどんどん、河内長野でも広げていけばいいかなという気がするのですけれども。

ただ、そういう社長の思いを河内長野の市民の方がどれだけ知っておられるかということが、もう1つ、問題なのですけれども。「一緒に支えていこうよ」という気持ちになってくださる方がいた方が、どんどん盛り上がっていくかと思うのですけれども。

いかがでしょうか。

もう1つ、私から話題提供をさせていただきますと、吹田市に歴史文化まちづくりセンターがあるのですけれども、ここも、旧吉備亭という庄屋のお宅を、吉備さんが寄付されて、今、歴史文化まちづくりセンターになっているのですけれども、その時も、活用のあり方から市民懇談会を開いて、市民のアイデアで活用方策を決めて、その懇談会のOBさんがNPOをつくってくださって、運営をされているのです。そのようなモデルもあります。ですから、計画づくりから運営まで一貫して、市民の皆さんがともにやってくださるので、今でも、「何とか盛り上げようよ」ということで、市民レベルで頑張ってくださいている部分があるのですけれども。何かそういうことと言うと、先ほどの<重点施策 2>と<重点施策 3>が重なったところで、面白い施策が展開出来るのではないかなと思うのですけれども。

【太田委員】

ちょっとよろしいでしょうか。横谷さんは箕面の橋本亭というところでやっておられ

るのですね。前もお話を聞いたかと思うのですけれども、元々の取っ掛かりは、古い由緒のある建物ということではじめられたのでしょうかけれども、元々の話をはじめられたきっかけと、今、現実に、どういう風な形で運営をされていて、先ほど少し、財政的なことも少し言っておられましたけれども、現実にはどういう風になっているのですか。場所的には、例えば、市民が誰でもパッと行けるような位置にあるわけですか。

【横谷委員】

箕面の駅から滝まで観光ルートがあるのです。駅から大体 5 分ぐらいで行ける位置にあるのですけれども。まず、箕面都市開発が、市の駐車場の管理とか不動産業のようなことをしていますので。

【太田委員】

だれがやっておられるのですか、不動産業というのは。

【横谷委員】

箕面都市開発です。それで、橋本亭を焼肉屋に使いたいという方がおられたのです。それは民間の方で、他の場所で焼肉店をやっておられて、「何とかこの建物を利用したいんや」という話が、都市開発の方に来たのです。

【太田委員】

所有者は元々、都市開発なのですね。

【横谷委員】

いえ、違います。元々の所有者の方は旅館をされていたのです。その方が高齢になって、旅館を続けていくのが大変だということで、開店休業状態になっていたのです。その建物がいいということで、そういうオファーがあって、他の建物を、都市開発とか滝道周辺の観光文化を考える懇話会があって、そこで、そういう再生をしていきたいという話はずっと出ていたのですけれども、結局、その話し合いではことが全く進まなかったのです。何かアクションを起こさないとダメだということで、民間のオファーもあるから、橋本亭を活かして何かしたいなという話をしていたのですけれども。民間の方が、改装にお金がかかりすぎるということで諦められたのです。大体、改装にどれぐらいのお金がかかるかということも、都市開発がその方から聞いて、都市開発が橋本亭の建物を持ち主の方からリースして、月々の家賃を払って改装もさせてもらうという契約をして、運用しているのです。

【太田委員】

都市開発がリースしたというのは、元々そういう形のものを、何かのグループに、今もここで書いていますけれども、箕面市としては、保存をしていく一方で、そういうことを今後、何かの方向に向かってやっていこうというベースがあったのですか。自然発生的に出た話なのですか。

【横谷委員】

自然発生的ですね、僕が知っている限りでは。自然発生的に話が出て、都市開発でまちづくり事業部というのがありまして、まちづくりで拠点施設がほしいということもあったので、それで、橋本亭を保存、再生していこうと。

【太田委員】

母体としては、箕面市の都市開発がやっておられるのですか。

【横谷委員】

そうです。

【太田委員】

それを維持していくために、そこで、採算が合っているというような問題ではないと思いますけれども、維持をするのに、年間の大体の収支はどうなのですか。

【横谷委員】

スタートしたのが11月なのです。まだ、そういうのを出しているところなのです。計画はあるのですけれども。

【太田委員】

どうなるのかわからないと。

【横谷委員】

多分、採算のことを言っていたら、誰もスタート出来なかったかと思います。とりあえずやってしまえと。やってから考えるというところが多いので、運営についても、都市開発のスタッフが入って、収支のデータを集めたりとか、実際の運営とかですね。トイレ掃除から何から何まで、今やって、オペレーションを覚えて、それで、次にうまく回していけるように、どんどん改良していっている途中なのですからけれども。

【久部会長】

私も若干関わっていますので経緯を言えば、自然発生的といえれば自然発生的なのです

が、前史みたいなものもいくつかあるのです。箕面の場合は景観担当、今は「みどり推進室」というところが景観担当をやっているのですけれども、その景観担当の方々が、歴史的な建物を十数年、何とか残そうという活動をしてきているのです。いわゆる、登録文化財というものも10件近く登録してきているのですけれども、そういう運動をしている中で、「単に文化財に登録したり指定したりするだけではあかん」ということで、活用方策も考えながらやっっていこうということを考えてきているのです。しかしながら、なかなか、活用まで、市役所がお金を出して「こうしましょう」とは、なかなかないところがあって、そこで、色々な方々のネットワークを使って、うまく活用出来る方がおられれば良いなということをやっってきているのです。橋本亭も、10年前からの、「今後、危くなるのではないか。所有者の方も高齢になってきているので」ということで、その候補の1つではあったのですけれども。たまたま、そういう話があって、どうするかという話の中で皆が検討した中で、箕面都市開発がリースで運用するというのが、一番実現性としては高いだろうということで、今、実験的にやっってもらっています。先ほど、横谷さんがおっしゃったように、これがうまくいかなければ、また次の方策を考えるか、手放してしまわなければならないということになるのですけれども、なかなか、市は、お金をどんどんかけてというところまではいかないのですが、今、何が出来ているかという、どれぐらい、その建物がもつかどうかという調査を、今、市のお金で専門家を雇ってくださってやっています。そこで、補修にいくらぐらいかかるかという金額がはじかれますから、次に、それを市が出すかのどうするかということを考えていかなければならないのですけれども、かなり大変な状況になっているということもお聞きしているのですけれども、「次のステップは次のステップとして、また一緒に考えようや」という、非常に乱暴な言い方ですが、走りながら考えているというような状況なのでもう少し詳しくお聞きしたいです。

【太田委員】

私が今、お聞きしたのは、恐らく、自然発生的に出た話であつたら一番いいのですけれども、現実問題として、今、ここで議論している話もそうなのですが、現実的には非常に難しいであろうと。どこかでそういう方針を打ち出して、極端に言えば、予算も、「鶏が先か、卵が先か」という入りの部分で言うのではなくて、やはり、予算をつけて、その代わり、「何年間はやってみましょう」というような、全てそういうものでないと、なかなか、「全てボランティアですよ」という話では通っていかないと思うのです。それで、結論では、このようなことは採算で合う話ではないと思うのです、それが一番いいことではしょうけど。ですから、その辺で、先生が恐らく、方針としてこの中に1つ入れて、「こういう方針を打ち出してやっっていこうよ」というベースがあって、それで、色々な関係機関が協力しあって、出来るだけコストがかからないようにやっっていこうというようなことが必要ではないかと思うものですから。

沢山、河内長野もそういう形でピックアップしていけば、結構あるのではないかと思います。逆に、この間も話していたのですけれども、古い建物が、旧街道の両方の家も、河内長野ではどんどん取り壊されて、三日市で今度、開発したのも、周りの家がほとんど壊されるばかりで、「河内長野というのは案外、そういうのがないな」ということを、私達は話し合っているのですよ。市の方は、そういう保存などという考え方があるのかなと、現実的に。「金がないから、それは放っておくのだ」と言ってしまうと、それまででしょうけれども。本当は、それは皆さんが考えていることなのですよ、この河内長野で。ですから、もちろん、河内長野市としても、今までも売り出してきているでしょうけれども、色々、勉強ということではないですけれども、色々話を聞きますと、温泉のまちの河内長野とか色々というのは、今、「温泉のまち」というのは、「一体どこに温泉があるの」というように、反対に聞かれるのです。「有馬に匹敵する温泉だ」とか言っても、どこにあると言えば、「そう」というぐらいのものでしょうから、古い建物とか、建物だけではないと言えばそれまでなのですけれども、そういうものも結構、そういう方針というか、方向を打ち出せば、結構なっていくのは沢山あるのではないかと思います。すけれども。

【久部会長】

1 つのすごい成功事例で、そこまで出来るかどうかはわからないのですけれども、今、有名なところで言うと、長浜の黒壁、北国銀行の跡の建物を買い取る時に、7 人の方で 9000 万円出したのです。彼らは、市役所が動く前に、この建物が潰されるということで、「何とか自分達でできないか」ということで、社長さんですからそれだけ出せたというところもあるのですけれども、2000 万円出した方が 2 人、1000 万円出した方が 5 人、7 人で 9000 万円を集めて、「私達はこれだけ集めたんや。9000 万円では足りないので、市役所で上乘せをしてくれ」ということで、市役所が 1 億 1000 万円を出して、合計 2 億円でその建物を買い取ったのです。

彼らは、なぜ、黒壁という株式会社をつくってやったかという、ボランティアで 9000 万円を出したわけではないのです。やはり、9000 万円を取り返さなければいけないわけです。これに必死になったわけです。そして、あそこまでいけて、2 号館、3 号館と、今は 20 数号館までありますかね。そういうことになっているわけです。

だから、先ほどの横谷さんのお話にあったのですけれども、箕面都市開発は何かリース料を払わなければならないのだけれども、市民の方々はタダで使わせてほしいということがあって、なかなか難しいというところで。

箕面でも、もっとささやかな額ですけれども、実は数年前に、市民が皆で酒場をつくらうということで、「えんだいや」という名前で、酒場をつくったのです。それも、文化懇話会で、「皆が集まれる酒場をつくらう」という話で、ドイツに行かれた方はわかるかと思いますが、ドイツでは市役所の下にパブがあって、そこで皆でお酒を飲んで

政治の話とかが出来ているわけです。「箕面の市役所の地下食堂もそのような居酒屋になったらいいな」という話をしていたのですけれども、市役所が居酒屋を開くということはないなという話になって、「そうしたら、自分達でつくろうや」という話になったのです。たまたま、空き店舗が見つかって、空き店舗の改修費と権利料を払ったら、300万円いるということがわかったのです。「300万円をどうやって工面しようか」ということになって、私たちも含めて、有志が「皆から出資を募ろう」ということで、1口10万円を出資を募りました。「300万円までいくかな」と言っていたのですが、ふたを開けてみると、900万円、90口集まりました。主婦の方は自分の裁量で10万円を出せませんから、1万円ずつが10人で1口にしてくださいだったり、あるいは、お金を持っておられる方は、2口、3口提供してくれたりして、そういうことで、ちょうど90人で900万円集まったという計算になるのですけれども。

それが、面白いのは、儲かりはしませんけれども、つぶれもしないのです。なぜかという、自分達が出資金として10万円を出しているわけですから、滑ったらその10万円がパーになります。どこかで酒を飲んで、皆で語り合いたいわけじゃないですか。「えんたいやがちょっと危ないで」と言ったら、「皆でちょっと盛り上げに行こうか」という話で行くわけです。だから、絶対に、低空飛行でつぶれないという、そのような、皆で責任を持つ仕掛けをとっているのです。長浜の社長もいつもおっしゃるのですけれども、「やっぱり、責任を持つにはカネ出さないかんで」という話をされているのです。タダでしたらいけませんよ。皆さんのイベントでもそうです。チケットを500円で売ったら、人数を呼べますけれども、無料だと、登録だけして、当日は7割ぐらいしか来ないというようなことになるのと同じで。やはり、1000円でも5000円でもいいから、皆でお金を出し合ってやると。

逆に、お金を出したら、先ほどの長浜の例のように、市役所にプレッシャーがかかるのです。「市民だけでも何百万円も集まってんねんで。市役所は放っておくんか」となってくるので。そのような発想も、協働という点ではいるのではないかという気がするのですけれども。

実際に、箕面ではいけていますし。それと、もう1つ、違う事例ですけれども、北千里で月に1回、意見の交換会、交流会を行っているのですけれども、そこで、先週の土曜日、北千里高校の教頭先生がずっと来てくださっていらして、前回、「私、ちょっと、皆さんにすごく言いにくくて、高校の身勝手だということをおわかりいただいて、敢えて言わせていただくのですけれども」という話があったのです。それは、今、高校2年生にほとんど耳の聞こえない女子学生さんがおられて、耳が聞こえないものですから、彼女は先生の口元を見て授業を理解出来ているのです。かなり優秀で、大学にも進みたいと言っているのですけれども、授業中、ずっと先生の口元を見ておかなければいけませんから、ノートを取ることが出来ないのです。ノートを取る方をつけていただいていたのですけれども、2年間は大阪府の教育委員会からお金が出ていらして、ある方を雇っ

ているのですけれども、2年でその補助が打ち切られて、3年目、一番大切な時にお金がなくなるという話があって、その方に、「あと1年、ボランティアで何とか」と、お願いしたのだけれども、その方も、「気持ちはわかるけれども、私も生活があるから、ボランティアではちょっとしんどいです」という話になって、困ったのだけれども、「地域の方で何とか協力が出来る方があれば」という話をされたのです。教頭先生は、ボランティアでノート取りをやってほしいという話をされたのですけれども、これはなかなか難しいのです。彼女は、国立でかなり偏差値の高い大阪外国語大学を目指しているのですけれども、その彼女が高校3年生で習う内容をきちんと理解して、ノートを取らないといけないわけですから、ある程度授業内容がわかって、なおかつ、彼女のサポートを出来るという人間はというのは、それで無償ですから、そのような方と見つけるというのは極めて困難なのです。

それで、教頭先生も、「どうしようかな」と言っていたのですけれども、実は、この輪の中にNPOをやられている方がおられて、「先生、ひょっとすると、人を見つけるよりも、200万円を工面する方が簡単かもしれんよ」という話になったのです。なぜ、そうおっしゃるかという、白いリボン運動というのをされましたよね。NPOや市民活動をされている方はご存知だと思いますけれども、赤い羽根は赤十字の募金になります。それから、緑の羽根は緑化基金で、緑を増やすことにお金が使われるわけですが、白いリボンというのは去年の秋からはじまって、そこにお金を出すと、市民活動とかNPO活動にお金がまわるという仕組みをとっているのですけれども、その方が吹田で頑張っていたところ、ポーンと30万円寄付してくださった方がおられたそうなのです。その方と色々なお話をしてみると、「私は別に、子孫に資産を残す気はさらさらなくて、社会的に使っていただける方があれば、また、言ってください」とおっしゃったのです。その方がおられるものだから、「ひょっとすると、200万円全額ということは言えないかもしれないけれども、そこそこの額が、その方のご協力でいただけるかもしれない。だから、ちょっと1ヶ月、また、次回の会議の時にご報告させていただきますけれども、ちょっと時間をいただいて、私の身の周りにどれだけお金が集まるかということをご頑張ってみます」とおっしゃってくれました。

そうすると、商店会の方もおられまして、「商店会も理事会にかけて、どれだけ資金提供出来るのか考えてみます」と言ってくださいました。

さらに、万博競技場が近所にあるので、ガンバ大阪の事務局の方がいつも来られているのですけれども、ガンバ大阪の方も、「その女子学生さんと親御さんにプライバシーの問題がなければ、スタンドでピラをまかせていただいて、募金活動をしてもいいですよ」と言ってくださいました。この前、アルビレックス新潟とガンバ大阪の試合の時に、地震の被災者に向けての募金を、アルビレックス新潟の方がやられた時に、そこそこの額が集まったらいいのです。そういうことになるので、「スタンドで募金活動をさせてもらえれば、そこそこの額までいきますよ」と。「それを皆で持ち寄ったら、200万円に届く

かもしれない」という話に今、なっているのです。

何が言いたいかというと、お金を出せる方が、きちんとネットワークの輪の中にいるということと、いつも、月 1 回集まって、皆がネットワークとか絆を充実させてきたからこそ、ポンとそういう話が持ちかけられた時でも、スッと動けるような体制が出来上がりつつあるということなのです。その辺りが、多分、これから、協働とか、特に、市民で何が出来るかというところのポイントなのだろうと思うのです。先ほど、横谷さんのお話の時に、太田さんが、「自然発生ですか」とおっしゃったところも、自然発生は、やはり、何か、いつも情報交換をしたり話し合っている場があるからこそ、そこに投げかけられたら、「都市開発がやってよ」とか、「市役所はこれをするわ」とか、「市民はこれが出来るわ」という話になるのです。箕面の場合も、そういう土壤があるからこそ、「橋本亭が今、売りに出されているで」という話を誰かが持ち込めば、皆が持ち場ごとに動けるのです。だから、多分、色々なものを実現するというのは、先ほどお話にあったように、方針に書き込むことも重要ですが、ことが起こった時にすぐに動けるような体制を常にとっておくということです。そのためには、先ほどからお話しているように、定例的に皆が顔を合わせて、色々な問題を投げかけられるような、情報交換出来るような、そのような場をつくっておいてはどうかと思うのですけれども、それが、ずっと白木さんがこだわっていらっしゃる、ぶらっと行けて、些細な話でも出来るという場所にもなるし、そのような場所を、これはお金もかからずに簡単に出来ることですから、何か河内長野でも是非とも、少なくとも 1 箇所、そういう場所をつくってくだされば、そこから色々なものが生まれてきたり、案外、市民同士で解決出来るような話になるのではないかと思うのですけれども。

【木之下委員】

今、久先生から外の色々な情報を聞かせていただいたのですけれども、私も「河内長野市民会議」というのを今、やっているのですけれども、これも、私たち 4、5 人が、「ガイアシンフォニー」という映画を観た後に、河内長野市をふるさとと呼べるまちづくりをしたいということで集って、そして、何年か話し合いをしながら来て、その時に、市の環境の担当者であった関係者の 1 人に入っていて、その方も、環境とか色々なことをしながら、まちづくりというか、子ども達にふるさとと呼べるまちづくりを残していきたいということで、それこそ、2ヶ月に 1 回ぐらい、不定期にですけれども、色々な家を回りながら、会議を重ねていっていたのです。市の方で環境基本計画というものを立てる時に、1つの催しをしたいと。市民に訴えるような、私達の市民会議、まだ市民会議にはなっていなかったのですけれども、「ふるさと・夢のまちづくり」という形で何か出来ないかなということで、場所を、市の方でやりましょうと。そうしたら、『ふるさと・夢のまちづくり』さん、何かやってくださいよ」ということで、呼びかけをして、その頃はまだ、ボランティアという部分が、それぞれやっているのだけれども、つなが

っていないと。そしたら、皆で1度、ボランティアをやっている人たちの顔合わせの場をつくりましょうということで、やはり、5、6人が集まっていたネットワークをもとに、色々な団体に声をかけて、今はキックスになっている、以前の市民会館で、そういう風な催しを市と一緒にやったのです。そこで、市の方ではワークショップとかフォーラムとかをやって、私たちの会議の方では、それぞれの団体の顔合わせの会をやったのです。

だから、今、常石さんがボランティア団体のそれをやっていたいていますよね。そういう風なものが出来たので、そちらの方にあれしたのですけれども、そういう風な部分をやってきたということで、そのメンバーを含めて、「河内長野市民会議」というのをつくろうということで、今、それぞれ、お金を集めて出資して、1口1000円なのですけれども、やっているのです。それぞれ出している人が1口1000円ということなので、5000円出せる人は5000円、1万円出せる人は1万円という形で、運営していつているのですけれども、今、この場で、私がこの「協働のまちづくり」に来たのも、協働というのを市と取りたいというところでやってきた活動で、今は、環境というところを窓口にしながらやっているのですけれども、その中でも、実際に動いているのは5、6人なのですけれども、例会を毎月開いています。そこに、来たい方は来られるという形でやっているのです。それで、動いているのは5、6人で、先ほどもお金のことが出てきていたので、そのお金については、「今は動けないけれども、その考え方とかやり方に賛成だから出資をしますよ」というか、出資というまでではないのですけれども、「会費に何口か払います」というような方もおられながら、今は31名ほどでやっているのです。

今は、先ほども言ったように、環境という窓口を切り口にやっているのです。環境だけではなくて、それぞれの会員の思いは福祉であったりとか、教育であったりとか、色々あるのですけれども、そういう風なメンバーがあれしながら、今は、環境というところで、環境フォーラム。その環境も、先ほども私が少し言いましたけれども、自然環境というだけではなくて、私達を取り巻く全ての環境ということをつまえて動いていこうというのを、一応、基本に置いているのです。だから、今、色々な問題が起こってきていて、できれば、今言っているような、市民の集まる場とか、協働する時の場をつくっていききたいというのが、一番大きな目標がありながら活動を少しずつ進めていて、年に1回、環境フォーラムという形で、それもそれぞれの地域のグループとかそういう風なものの発表の場とかいうところで、今、つくっていきつつあるのです。でも、動いているメンバーは5、6人なので、なかなか、「エイ」という形では飛び立っていないのですけれども、今はそのような形でやっていつているのです。

それと、もう1つ、先ほど、久先生がおっしゃっていた「場」なののですけれども、ここで協働ということを含めて、皆が集える場ということで、できれば、色々なところ、そういう風な古びたところとかを探すのは、その場でつくっていったらいいかなというので、集まる場所として、できれば、皆さんここに集まって、今日で分科会が最後ということで、他のグループにも一緒に声をかけたらいいかと思うのですけれども、キック

スという素敵な建物が今、出来ているのですね。そこは、生涯学習センターということで、図書館もありますし、そこには集会室というのがありますよね、1階にね。それは、どういう位置付けなのか、ちょっと私も勉強不足なのですが、その集会室も空いていたら使えますよね。ですから、そこを、できれば、市との協働の最初ということで、市の方から、例えば、月1回、日程を決めて提供していただくと。そして、そこに来られる方が集まって、また、もちろん、市の方も参加していただければいいのですけれども、皆さんで時間を決めて、皆でそれぞれ集まりながら、座談会的なことを、持ち寄れる場の第一歩に、この第4次総合計画に携わったものが、第4次総合計画を見守ったり、進めていく足場になるべきかなと、私としては思っているのです。それで、是非、そこをそういう場に出来たらなど。ちょっと前に使わせていただいたら、あの部屋にはお湯を沸かしたりする場所もありますので、お茶も飲めるだろうしということで、勤め帰りに何か持ってきて、ちょっと広げて、食べながらお話も出来るかなという、いい場になるのではないかなと、少し思っているのです。

【久部会長】

この前、お仲間の川口さんと別の団体でお話を伺った時に、例会は誰でも来てもいいと。もう1つ、運営会議があって、そちらでは集中的に、活動とかこれからの会のあり方とかを議論しているということで、2つに分けて運営をされているという話があったのです。例会が誰でも来てもいいというのが、まだまだ、市民の多くに周知されていないのか、やはり会議でないといけないのかなという勝手な思い込みでおられる方も、まだまだ少なくないかなという気がするのですけれど。

本当にその例会が、河内長野の市民であれば、河内長野を愛している人であれば、ぶらっと来て、色々な話が出来て、意見交換、情報交換出来るということが市民に浸透していけば、先ほどの北千里と同じような場所になるし、そこから色々なつながりが出てくるのではないかなと思うのですけれども。

ちょっとアドバイスの話をさせてもらおうと、私も色々なところとお付き合いをしていて、活動と場をうまく切り分けておかないと、誤解を招くところがあって、「市民会議は活動するところなんや。だから、あそこに行けば、活動を一緒にやらないといけないんや」みたいな錯覚に陥ったりすることもあり。今、環境をやられているということで、すごく熱心に、「テーマを絞ってやってみようよ」という話が、逆に、「あそこは環境のグループなんや」というような思い込みになられたりするのです。ですから、活動をする時の顔と、例会をやられる時の顔をうまく使い分けていくといいのですけれども、それが重なってしまえばしまうほど、一生懸命やっているのだけれども、それが逆に、他の市民に対しては、別のイメージを持たれてしまうところがあるので、その点をこれからうまく運営されたいかなと思いますし、北千里の場合は、違うグループで違うことにしているのです。だから、活動するのは、他のところで、皆で小さな

グループでやってもらった方がいい。そこは、月 1 回集るだけだという、そういう切り分けをしているのです。だから、そこが、これからさらに大きくなっていくための 1 つのポイントかなという気がするのですけれども。

他はいかがでしょうかね。今日は最後の部会ですので、思う存分、これからの 10 年間に、「こんなことをやりたいな」という話をしていただいた方がいいと思うのですが。

ちょっと、私がずっと気になっているのが、白木さんの、「なかなかぶらっと来られない」という話なのですけれども、いつも、市役所の方をお願いしているのは、本当にぶらっと来られる場所を、先ほどの木之下さんは自分達のグループでやってくださっていますけれども、市役所も懇談会とか、サロンとか、何かそのような形で、ぶらっと来られる場所をもっとつくってくださった方がいいのではないかと思うのです。どうしても、委員会への公募という話になっても、もう、そこで、市役所が聞きたいことを持っているわけです。あるいは、今までの事業の説明会なども、市役所が言いに行くだけの話であつたので、市役所が何も持たずに、市民の声を素直に聞けるような場を、もっと沢山つくってくださらないかなというのが、私からのお願いなのですけれども。

【木之下委員】

先ほど、私が、「キックスの下」と言ったのは、そういう風な場をつくっていただきたいなと、サロンのような形に。だから、場は行政側が持っている場所なので、そこを是非、そういう風なサロンの場のような形にして、そこでやる会議は、そういう風な「サロンの位置付けでやりますよ」という風なものを意識付けると、そこに行きやすくなるかなというのを少し思って。市役所の中でどこかあれば、それでもいいのですけれども、そのようなことを思って。先ほどの市民会議の部分と離して、その部分はそういう風な場で出来たらいいなと思って発言させていただいたのですけれども。

【久部会長】

なるほど。何かそういう、市役所の職員も含めて、いつも定例的に意見交換が、肩肘をはらずに出来るような場所が出来たらいいのかなと思うのです。よく、懇談会をやられていますでしょ、地域とか、あるいは、市長との対話とかで。あれは、私の言葉はちょっと悪いのですけれども、年に 1、2 回しかしないから、たまった話をいっぱい出されるようになって、「ちょっと困ったなあ」と、市役所の方も思われるのだけれども、月 1 回やっていると、その思いというのが分散しますから、市民側の方も、だから、そのようにまとめて話をしようという、肩に重たいものを持って来られる方も少なくなってくるし、回数を増やせば増やすほど、雰囲気も良くなると思うのです。逆に言うと、回数を減らすから、お互いに構えてしまって、ぶつけ合いになってしまうのではないかなと、私の経験からも思うのです。だから、ひょっとすると、木之下さんのグループかどこかはわかりませんが、市民がそういう場所をつくってくださって、市役所の職員が

背広を脱いで、一個人として参加出来るようになるところからスタートするのが、一番やりやすいのかなという気はするのですが、なかなか、その背広を脱ぐのが、私の他の経験からしても難しいことは難しいのですけれども。もちろん、制服を脱いでも、そういう顔をせざるを得ないところが出てくるところはあるのですけれども。

【太田委員】

先生。具体的にそのような、市のようなところで、サロンをやっているというところはあるのですか。

【久部会長】

あります。

【太田委員】

それで、それはどのように運営しているのですか。運営というと堅苦しいのですが、そういうことを、今言うように、ぶらっと行って、「ちょっとお茶を飲もうや」、「ちょっと話し合おうや」とか、どのような形式でやっているのですか。

【久部会長】

これは、総合計画できちんとした仕組みにしているのは、八尾市なのではけれども。4年前に総合計画をつくらせてもらった時に、ぶらっと地域の人が集まれるような場所をつくろうよと。そして、それを、地域の方に主体的につくってもらって、市役所が応援しようよという風な形でやっています。その範囲は、できれば、小学校区の単位でつくってもらいたいということで、地域の方々が運営をして、地域のネットワークを一番持っているのは、地域の社会福祉協議会の福祉委員会さんですから、福祉委員会さんの役員さんが運営をされるということが、一番、パターンとしてはやりやすいのですけれども。別に、「普通の市民でもいいですよ」ということにしているのですけれども、ネットワークのない市民さんがやりましょうという話は、なかなか難しいので、今のところは、地区福祉委員会を中心に運営して下さって、月に1回、集まって、そこには市役所の職員さんも来られて、意見交換をしているという場ではありますね。

それから、北千里の場合は、全く、市役所は運営には関与していません。北千里が非常に面白いのは、商店会を中心に運営をしてくださってまして、商店会の呼びかけで、商店会の会議室に集まって、月1回、意見交換をしています。市役所の職員さんは、市役所の職員としてではなくて、個人として、何人か、いつも来てくださっていますし、そこで、色々自分の仕事にフィードバックしたり、仲間に反映している部分も出てきているということです。だから、いくつか、そういうのもあることはあります。

【太田委員】

例えば、市役所の方が出てくるという、市と言うのは簡単ですけども、具体的には、
どういう部署が。

【久部会長】

八尾の場合は、担当は、「地域経営室」というところにしていまして、元々の「企画調整室」なのですけども、この前の総合計画で、「地域経営」という概念を打ち出して、「地域経営」というのは何かというと、今日、皆さんがお話していることと全く同じなのですけども、地域にはいっぱい資源があると。モノの資源もあるし、人の資源もあるし。そういうものをうまくつなげて活用していく、その仕組みを運営していくことを、「地域経営」と呼んでいるのですけれども、その「地域経営」を、これから 1 つの目玉にしてやっていこうではないかというのが、総合計画で打ち立てられましたから、「企画調整課」というのを「地域経営室」というように名前も変えて、従来の、市の全体を調整するような部門と、それから、地域の方々と一緒に話し合っまちづくりをしていこうという部門と、両方を兼ね備えた室に変えたのです。その「地域経営室」の方々が出かけて行って、色々話を聞いてくださって、その部署で企画調整も持っていますから、ですから、市役所に返して、「この問題はおたくがやる仕事と違いますか」ということで、フィードバックをしていくようなシステムを構築しつつあるというようなことなのですけども。

【太田委員】

つまり、それは、市民の声とのパイプ役の部署ということですね。

【久部会長】

そうです。

【太田委員】

例えば、それを河内長野市に当てはめたら、どこがあるのですか。それは、先生に言うことではないですかね。

【久部会長】

「どこにある」というか、これは新しくつくらなければならないのです。

【藤委員】

市民参加グループになるのです。そこが、実は今、そういう仕事をしているところなのです。ちょっと、私、今の話が、新しい話でいいのですけれども、基本的には、皆さ

んが知ってる通り、その地域において、子ども会であるとか、老人会であるとか、農業団体であるとか、商業団体、もしくは、防犯や交通やという色々な組織の方々が、行政に協力するために、その組織をつくってくれておられるのです。現に、そのような団体が今、活動をされているのです。ただ、「気安く」というと、反対に、定例会は、年に春と秋の2回ぐらい、そして、活動は地域ごとでやっていただいているということで、広く部門で捉えると、市域的に、交通部門はあり、防犯部門もあり、老人部門もあり、そして、地域婦人部門もあり、色々な部門があるのです。今、おっしゃっているのは、それ以外にどこにも属さないけれども、「何かやってみたいね」という人たちの話ではないかなと思いますので。そうすると、施設は全然ないのかということ、施設自身はあるのです。まだ少ないのですけれども、実は、小山台に「あやたホール」があり、そして、日野にも「みのでホール」があり、そして、清見台にもホールが出来まして、そのホールのことを、コミュニティセンターと呼んでいるのです。それは、地域の方でやっていただいている。そして、その「地域」というのは特定ではなくて、もう少し広がりを持って、中学校区単位で動いてくれていますから、だから、色々な方がそこで活動してくれていると。

それ以外に今、多分、そこにも入りにくい、そして、その専門部門に入りにくい、そして、自分達の新たな拠点がほしいということではないかなと思いますので、だから、協働の新しい組織のことを議論されているのではないかなと思うのです。

我々も、もう1つ言いますと、この市役所をつくった時にも、見ていただけるとわかるのですが、下に市民サロンというのがあるのです。そして、市民ホールもあるのです。そして、前の広場は、「市民広場」と呼んでいるのです。だから、どうぞ皆さん、ご自由に来て、あの広場で憩い、そして語らい、くつろいでくださいと。そして、寒い時、暑い時には、どうぞ入っていただいて、テレビを観ていただいて、お友達同士がそこで座って会話をしてもらってもいいですよ。そういうことで、今、お年寄りの方も入ってきて、話をされています。そういうことでできていますから。ただ、そこに、あとは何が足りないのかなと。今、多分、皆さんがおっしゃっているものが足りないのであればいいのですけれども、それをNPOという形に持って行くための組織づくりをしてはどうかというのであれば、また、1つのことを考えなければならないのです。

改めて、市民との協働という言葉も出ていますから、多分、ボランティアと言っても有料もあれば無料もありますから、難しいのですけれども、多分、協働の世界でいくと、先ほど少し出ました、活動センターというもの、拠点がやはりいるのではないかということで、この拠点については、市としても何とかしたいと。先ほどから、そのような施設はないですかということで、今は、大阪府の保健所の支所、「健康プラザ」というのですけれども、これが実は、去年の4月に廃止になりまして、今、そこは、市の方がお借りして、市がやる健康の、要するに乳児ですね、子どもの健康のための健診の場所に少しお借りしているのです。三日市のビルが出来たら、そちらに移るのですけれども、その

後、府と話をしまして、それを貸してもらえないかなど。

【太田委員】

どこにあるのですか。

【藤委員】

ちょうど、外環状線の横です。外環状線の警察の手前。ちょうど、西友の東です。そこにありまして、その施設をですね、これは大阪府の土地であり、大阪府の建物なのですよ。

【太田委員】

保健所のことですか。あそこは今は使っていないのですか。

【藤委員】

もう廃止したのです。支所ですから。大阪府が廃止しましたので。

【太田委員】

いつですか。

【藤委員】

去年の4月です。だから、保健所は富田林にしかないのです。それを、今、市が借りているのですけれども、借りている用途が、今度、三日市のビルが出来ると、今年の7月には、そちらの方に移るでしょうと。その後、大阪府自身に返さないといけないのですけれども、それを何とか使えないかなということ、大阪府と協議をしまして、安くかたダか使わせていただいて、それを拠点にさせていただこうという考えは今あります。だから、何もゼロではなくて、形が新しいように変わっていきますよね。現にあるということをおっしゃっていただきたいなと思っております。

【久部会長】

その辺り、市民側のご意見をお聞かせ願いたいのですけれども、私が思うには、これは河内長野だけではないのですけれども、行政が縦割りと言うけれども、実は、市民側も縦割りになっているのです。市民活動も縦割りになっているのです。つながるきっかけがなかなか見つからない。だから、市民活動センターというのを一言で言うと、市民活動の総合窓口ではないかと、私は思うのです。だから、市民活動センターに行けば、色々な活動がどこで担われているかということもわかるし、それから、地域活動も、市民活動センターの方々とパイプがあって、ここに来たら、「ああ、コミュニティセンターでこ

んなことをやっているよ」ということも全てわかるような、何かそのようなことになるのが一番理想的だろうと思うのですけれども、なかなか、地域活動の窓口まで、他のところでもまだ、なりきれていないけれども、本来は市民活動という限りは、地域活動の方々と太いパイプを持って、やってもらえたらいいなと思っているのですけれども。八尾で少し、その芽が出掛かっているところです。この前、地域活動の方々が月 1 回集まる会議をやっているのですけれども、「この前、何か、市民活動センターが出来たそうやな」と言って、「私達も使えるんか」という話になったので、「次回の定例会を、ほな、市民活動センターでしましょうか」という話になったのです。だから、そこまで行くことが出来れば、少し突破口が出来てくるのかなと思うのですけれども。

【木之下委員】

私も、ずっと、色々なことに関わりながら思っているのが、今、助役さんがおっしゃったように、それぞれのところで、子ども会、老人会など、色々やっていますね。そういう風なところをうまく使ってネットワークですね。それとか、それぞれの、今は常石さんのボランティアの方が今度、集約されて、それも 10 年前には、どのようなボランティアの活動をしているところがあるのかもわからなかったのですけれども、それを、市の方がアンケートをとったりして、色々して、色々なところに呼びかけて今、そこに少し、小さいボランティアということになって出来上がってきていると思うのです、今、動きが。

ですから、そういう風なのはいいのですけれども、先ほど言いましたように、市もそうだし、市民も縦割りというか、それぞれの分野ごとに動いている。でも、その分野としては、色々なことを知らせたいのですね。色々なところに知らせたいし、やはり、知らせることによって、色々なことで協力出来るし、情報が皆のところに行くという、そういう風なセンター的なものもそうですけれども、人的にも、やはり、そういう風な、全体を見たプロデュース的なことを出来るような場というのが、この 10 年間でつくっていいればいいのかという部分があるのです。

だから、先ほどから言っているのは、そういう風に、サロンとかそういう風な部分からそういう風なところに発展するのがいいのか、先に、そういう風な、「第 4 次総合計画ではそういう風なことをしましょう」ということで、仕組みづくりという部分をして、そして、「プロデュース出来る場をここにしましょう」ということで行くのがいいのかという、そういう風なところをもう少し、あと 1 年ぐらい残っているところで、第 4 次総合計画の中で話し合ったものが集まってやれる場所があればいいのか。その専門的な部分は先生方に任せるのか、そこにも市民が入って、この仕組みづくりもやっていくという風にするのがいいのか、その辺りも含めて、色々、まだまとまっていないのですけれども。

【久部会長】

今、ちょうど常石さんも一緒に入ってくださっている、先ほどの川口さんも入っていただいて、協働の懇談会をやっていますけれども、それも1つの突破口かなと、私は思っているのですけれども、色々なところでお手伝いをしていて、仕組みをつくるのは、専門家が集まったら簡単につくれるのですよ。でも、実際に運営してくださる市民の方々が本当におられるのかどうかとか、つくる時の気持ちとかあり方を共有してくれるのかどうかというところがあって、逆に、市民の皆さんが、河内長野の状況をよくわかっていらっしゃるわけですから、まず、その話を聞かせてもらって、河内長野には河内長野にふさわしい仕組みのつくり方というのがあると思いますので、そこで情報交換をさせていただいて、その延長上で、集まっていращる市民の方々が核になって、運営していただくというのが一番いいかなと思います。それをうまくやっているところは、センターが出来ても、ネットワークがうまくいくのです。そこで時間をかけていないと、どこかでまた、問題を起こします。どことは言いませんけれども、そういう事例も、私は経験していますし。

八尾の場合は、5年かかっています。色々なトラブルもあったし、壁も乗り越えてきました。1つのエピソード的な話を言えば、5年前に集まってらっしゃる方と、今、残っていращる方が必ずしも一緒ではない。途中で、「こんなん付き合われへんで」と言って、去って行った方もおられます。最後に残ってくれた方だからこそ、今、太いパイプでやっているというところがあるのです。

この前の秋に、40㎡の小さな活動センターが出来ました。でも、皆さんがおっしゃったのが、「やっと出来た。良かった」と言ってくださいます。他は、300㎡とか400㎡の立派なセンターなのですけれども、40㎡でも、「ああ、やっと出来た」と、そういう感想になりますし、この前、大阪府内の色々な方に研修に来ていただきましたけれども、皆、「すごくいいセンターだ」とおっしゃるのです。それは、今、運営されている方々の運営のやり方もあるとは思いますが、すごく、小さいながらも魂がこもっているのです。簡単な話で言うと、装飾とか、入りやすい雰囲気はどうやってつくるかとかというような話になっていまして、それはやはり、5年間かかった成果かなと、私達は思っているのですけれども。

是非とも、色々なところで、つながりが出来かけているではないですか。先ほど、木之下さんがおっしゃった、この総合計画のメンバーもそうですけれども、この方々のつながりをずっと持ち続けていって、さらに広げていって、何か実際に動く時に役に立つような形にさせていただくというのが一番いいのかなと思うのですけれども。

ちょっと、白木さんとか、村上さんとか横谷さんとかは、今まで、あまり、河内長野市の中では活動を担ってこなかった立場からいうと、どういう雰囲気とか、どういう仕掛けがあったら、何かきっかけがあるかなというのを、個人的な思いでいいのですけれども、どうでしょうか。

【白木委員】

理想的には、イメージでしかないのですけれども、すごく自分の行きたいところがあって、横で、「こういう話をするからここに来てくれ」と言われると、意見を持っていかねばいけない気がして、ふと思ったことは言えないのです。

私の理想は、そういう集まっている人がいて、横にでも、自分が違う目的でふらっとそこに行っていて、横でそのようなことをしているのだなというのがわかって、「そのことだったら、私もちょっと意見を言いたい」というのを、ふと言えりような場所だったら、行きたいのですけれども、「この話をしよう」と言って集まるというのは、なかなか腰が上がらないというか、そういう気がします。

それと、先ほど、お金の話が出たのですけれども、私は、「無料」というのは、スポンサーがいたりですとか、意味があつての無料であれば、わかるのですけれども、どこか、「市がお金を出しているから」という、そのような「無料」というのは、「無料」というものを見た時に、私のイメージとしては、大したことは出来ないだろうと思うのです。何をするのでも、「お金を出してでも行きたい」という場所にしないと、「無料だから行く」というのは、それまでの場所になると思うので、お金というのは、少しでもとらないといけないのではないかと思います。

【久部会長】

ありがとうございます。あまり目的を持たずに、休憩に行ったり、お茶を飲みまぶらつと行って、その横で別の方が話をしていて、ちょっと小耳に挟んで、「私も入れて」みたいな雰囲気になったら、一番いいのではないかとということですね。

【白木委員】

理想的なのですけれども、今は難しいと思うのですけれども。

【久部会長】

でも、そのお話は、先ほどの藤さんのお話にも関わるのですけれども、「市役所の1階もそうになっていますよ」と言うけれども、なかなか。

【白木委員】

普通は、市役所にふらつと行こうとは思わないです。市役所で観たいものがあるとか、「あそこに行ったらおいしいものが食べられる」とか。そして、ふつと行ったら、何かやっていたとかだったらわかるのですけれども、目的が市役所にはないですから。私だったら、横を通つても、「ちょっと市役所に寄つていこうか」なんて、絶対に思わないです。

【久部会長】

それは、どっちもどっちということで、「市役所はそんなもんや」というイメージがあるのではないかという気がするのですけれども。

これも、他の事例ですけれども、それを何とか改めようということで、茨木の都市計画課の若い方が数年前から、「都市計画課にお茶を飲みに来て」という呼びかけ方をして、月1回、まちづくりサロンを個人的に開かれていました。そういうネットワークがあったから、今、色々な面白いことがあって、やっているのかなと思うのですけれども。

ただ、それは色々ありましたよ。例えば、今日は田中さんが来られていますけれども、すごく熱心な議員さんがおられて、その中に入っておられたのです。そうすると、当時の部長が、「一議員が特定で入ってもいいのか」という話になって、「すみませんけれども、部長からそのようなことを言われましたので、次回からちょっとご遠慮いただければ」みたいな話もあったのですけれども。皆さんもそうですけれども、特に、市役所の都市計画課には、用事はないですよ、ほとんど。でも、ちょっとした工夫で、その方はやられていたので、何かそういう呼びかけもいるのかなという気はするのですけれども。村上さんはどうですか。

【村上委員】

私は、2年前に河内長野に来て、それまで、八尾に住んでいたのですけれども、先生が八尾の話をおっしゃっていて、全く、そういう話も全然知らなくて、全く知らない人がどのようにしてそれを知っていくのか、知らせていくのかというのがテーマではないかなと思うのです。私もここに来て初めて知って、「ああ、ちょっと色々知りたいな」と、初めて思うようになったので、これから、何もやりたくないという人ではなくて、「やってもいいけれども、全然そのような情報を知らない」という人にも参加してもらえるような取り組みをしたいです。

【久部会長】

これはなかなか難しいのです。今、八尾で、「まちづくり基本条例」をつくるために、市民会議をやっているのですけれども、この前、総合計画の勉強をしたのですけれども、やはり、半分ぐらいの人が「いや、そんなん知らなかった」とおっしゃるのです。市役所の方とか私とかは、「広報に載せましたよ」と言うのです。村上さんは多分、広報紙を読むのが好きな方だから、多分、読んでおられるのです。私の顔写真入りで、2ページで特集もやっているのですけれども、覚えていらっしやらないでしょ。そんなものなのです。だから、いくらページを割いても、その方がキャッチしなければ結局は情報は流れてしまうのです。そこが、私達がすごく悩むところなのです。色々な、手を変え、品を変え、広報するのですけれども、結局、読んでくださる側、見てくださる側にその気

がないと、なかなか伝わらないのですね。

北千里でも、1つエピソードがあって、先ほど北千里高校の話をしましたけれども、理科の先生がずっと前から参加してくれているのですけれども、1回目のご案内をその先生のメールに流しているのです。でも、その先生は、6回目ぐらいから来られているのです。

「この前、私がメールを整理していたら、1回目の案内をいただいていたということに気付いた」とおっしゃるのです。でも、「その時は、全然興味がなかった」と。読み逃していたというのです。そんなものだということです。その先生が、なぜ入ったかという、友達に誘われたからなのです。これしかないかと、私は常に思っています。広報に載せようと、ピラをまこうと、最後の最後は口コミしかないなという気がして、だから、1人の人間がどれだけ沢山の友達に声をかけるのかというところで、じわじわとネットワークをはっていかないといけないかなという気がするのですけれども。

そういう意味では、ここのメンバーは、非常にいいつながりではないですかね。例えば、先ほどの白木さんでも、ぶらっと行って、木之下さんがおられたり、常石さんがおられたら、「やあ」と声を掛けられるではないですか。今までしたら、そのような関係はなかったわけですね。「誰がおるやろか」というのがわからなければ、行かなかったけれども、顔なじみがいるということがわかれば、それで敷居がぐっと低くなります。何か、そのようなことをこれから増やしていくし、市役所の皆さんがお手伝い出来るところは、そこではないかなと思うのです。市民同士の友達づくりのお手伝い、そこが一番大きな仕事かなという気がするのですけれども。だから、できるだけ、色々な方々が集まれる機会を、市役所も意識をしてつくっていただいて、それをきっかけにまた、市民同士がさらにつながりをつくれるような、そのような手掛かりをつくっていただいたらどうかと思うのですけれども。横谷さんはどうですか。今度は河内長野市民として。

【横谷委員】

活動されている方の顔を全然知らなかったというのもあるのですけれども、そういう場に行くと、「ぐわっ」と巻き込まれて、いつの間にか色々、「お手伝いをしなあかなのかな」というのがイメージとしてあるので、やはり、お茶とか飲みに行ったついでに、情報とかつながりとかが出来ていくような、やわらかい場所というか、「付かず、離れず」のような場所がまずあれば、参加しやすいかなと思います。

導入はそこで、そこで人間関係をつくって、それで、「これは大事だな」と思うこととか、「やってみたいな」と思うことについて、もっと参加していくという、選ぶと言うと失礼だと思うのですけれども、自分の考えに合うとか、自分の考えもどんどん変わっていくと思うので、そういうのに合わせた出会いの場所があればいいかなと思います。夜遅くまで、駅の近くでそういう場所があれば最高です。

【久部会長】

横谷さんの世代などで言うと、メーリングリストとか、そういうのは、案外有効ですよ。だから、なかなか、わざわざ施設にまで行って、ピラをもらうということが出来ないし億劫なのですけれども、メーリングリストの輪の中に入れてもらって、情報だけは行く。そして、時間が空いていたり、あるいは、興味があったら、そのイベントだけにぶらっと来てくださるような、何かそのような仕掛けみたいなものも、これからの情報社会ではとても有効ではないかなと思うのですけれども。

実は、北千里の商店会の方々がそれをつくってくださっていて、携帯電話でそういうボランティア募集とか、あるいは、市民活動の告知が出来るような携帯電話のサイトをつくってくれているのです。それは、商店会の方々に費用を出してもらって、今やっているのですけれども、ただでは、さすがに商店会ですから、使ってもらえません。でも、「お金を払え」とも言っていません。買い物をするとシールをもらえるでしょ。シールをそのグループで何枚か以上集めれば、その1ヶ月間はただで使わせてあげますというようなことなのです。そうすると、商店会ももうかるし、市民活動側も告知が出来るというような話で、うまく役割分担をしているのですけれども。地域活動を担っていらっしゃるとか、市民活動を担っていらっしゃる側からはどうでしょうか。つながりづくりとか協働という意味では、今の現状とか課題とか、芝本さんはいかがですか。

【芝本委員】

私はたまたま、あちこちで、大抵同じ人ばかりという感覚ですね。どこに行っても、「ああ、お会いしましたね」と。「またここでも一緒」とか。

私は健全育成をやっていますけれども、一番入っていきやすいのはPTAですかね。1年入ってくれます。そして、毎年、「また来年も」と言うと、「もうダメ」とか、「仕事やっていますので」とか「子どもが小さい」とかね。だから、ついつい我々やら年寄りが、あちこちに出向されますので。もっと、本当は若い人が入っていただけたらいいと思うのです。

だから、今、キックスと言われていましたよね。大抵、最低で週に1、2回は行きます。誰かにお会いします、行っても必ず。だから、今、一番いいのは、助役が言われましたよね、市役所の1階に喫茶店でもつくって、コーヒーを飲めるような感じで。今日、ロビーでたまたま、地車をやっていますよね、展示会か。あそこが一番いいような気がします。キックスの、今言われました集会室ですか、ちょっと奥に入っていますでしょ。あれは、ちょっと奥なので入りにくいかなと。ただ、3階であつたら、あちらの方がいいかなとか。だから、一番いいのは、市役所のね。「来にくい」と言われますけれども、やはり、一番東の端ですか、ここでコーヒーでも出せば、一番いいと思います。

ただ、私が今、困っていますのは、とにかくせわしいです、あちこちに行かなくてはならないから。会議会議でね。だから、もっと違う人に行ってほしいかなと思います。ところが、「ダメ」と言われますので。この会でも、「誰かが行かないといけない」とな

るのです、協議会からね。「お前が行ってこい」、「たまたま会長だから行ってこい」という感じでしょ。次の会議も、「それもあんた」と言われますので、3つ、4つ重複するのです。だから、皆さんの顔は知っていますけれども、次に「また行こうか」という気持ちは、自分からは起こりません、上から来ない限りは。それが、皆さんみたいに「行ってあげよう」という人がいれば。そういう、「公募」と言ったらいけませんが、自分からしたいという人がいれば。来るのがイヤと言っているわけではないのです。ただ、「あれもこれも」とあり過ぎるのです。「今日も会議、明日も会議」という、今日があって、また明日もあるのです。明後日もまたあります。だから、女房に言わせると、「今日は祭日、明日は土曜日、その次は日曜日で、何で3つも会議があるの。市役所は休みじゃないの」と言われるのです。「やってますよ」ということで、連続ですよ。その点は、ちょっと考えてほしいかなと思っております。

【久部会長】

そういう意味では、委員会というものを、もう少し整理してくださいということですね。常石さんはどうですか。

【常石委員】

今日も色々と考えていたのですが、先ほどからの、先生の各市町村のそういう取り組みとか、要するに、市民同士のつながりというところの観点で、最近の経験で混乱しているのですが、やはり、藤助役がおっしゃったように、自治会にしる、老人会にしる、子ども会にしる、いっぱい、今、既に既得権を持ちながら活動しているところが、防犯にしてもあるではありませんか。それと、本当に市民活動レベルでやっている、その活動との間の、その辺りの意味合いというのを、すごく感じるのです。そういうところとの一緒の話し合い、一緒のレベルがないと、やはり、いくら、こちらの市民だけのところで話をしてもダメな部分というのがあるのです。

河内長野で、この協働の懇談会でも出ていまして、河内長野の駅の小さな商店街すらうまくいかない。青少年の方でも色々ある。自治会も、連合会が色々うまくいかない。ましてや、私、昨日、一昨日と、ここの下の地車の方とお話をしましたら、あれだけ、だんじりなどで一緒になっているだろうと、外からは見ていただんじりが、初めて、このようなことが出来たのだと。「長い歴史の中で、全部のだんじりがこのようなことをやったことはない」のだと。それを、「これだけの年数をかけてやっと出来た」と。それぞれが、今までの歴史の中で、それぞれの分野の活動の中で色々なことがあったと思うのです。そのことを、最近すごく感じるのです。

だから、私は、姑息のようかもしれませんが、やはり、スタートは、河内長野の場合は、皆さんそれぞれ、「自分達が」という意識があるので、「皆が河内長野を愛してみましようよ」と。「自分達で、河内長野のスタートをもう1度ここから、住民同士、

市民同士のつながりでやっていくということ、考えてみましょうよ」という呼びかけからはじめると、もっとその辺の、「ボランティア推進委員会があんなことをやっているらしいけれども、うちは関係ないわ」というような、「うちはうちらでお金があって、これだけのことをするんやから、私達は関係ない」とかみたいな論点が出てくるのはそこだと思のです。自分達はやっている。でも、そうではなくて、もっと大勢の人を引き入れてやっていったら、もっと河内長野の力になるのに、個々が自分の利害関係でものを言う、それをすごく感じるのです。

何か、先生が言われる、あちこちの市町村の話の聞いたら、住民意識のある程度のところからはじまっているので、そのスタートの辺りがもう少しわかればなと、私自身は思うのですけれども。

【久部会長】

実は、私は、敢えていいところだけを言っているから、そう聞こえるのですけれども、実は、同じような悩みを乗り越えてきたとか、あるいは、まだ、うまくいっていないところもあるのです。でも、それをお話しても、多分、短い時間では元気にならないので、だから、いいところのことばかりを言っているのですけれども、実は、同じ悩みです、スタートラインは。それをどうやって乗り越えていくのかということ、今日はあまり時間がありませんので言えませんけれども、例えば、具体的に言うと、某市では、市民活動センターがあるのですが、市民活動のネットワークもできつつあるのです。今、八尾と同じように、小学校区で集まる場所もできつつあるのです。その時に、私は市民活動センターの事務局の人とも知り合いですから、市民活動センターのお世話をしている市役所の部局と、地域活動のお世話をしている部局が一緒なのです。一緒なのに、「私のところには、そのような、地域ではじまったということの連絡がなかったけれども、何でやろうな」というお話をされていたのです。ぶらっと行けるところなので、「そうしたら、来月の小学校区の会議の時にきはったらいいですよ」と私は言ったのです。ところが、そこに来られなかったのです。それで、市役所の方に聞いたのです。「さんが、『今日来たい』とおっしゃっていたので、私は『来たらいい』と言ったんやけども」と話をしたら、「いや、私が止めました」と言うのです。「なぜですか」と聞くと、「やはり、地域の方は、筋道を通さないと、突然、市民活動センターの事務局長が行ったら構いはる。『何であいつがおるんや』という話になる」と。一市民ではないからですよ。一市民でしたら、ぶらっと来られるのですけれども、市民活動センターの事務局長でしょ。「『何であいつがおるんや』という話になるので、ちょっと筋道をまず立ててから、地域の方に、『次回からはこの方が来るけれども、』という目的ですよ」という説明をさせてもらわないと、なかなか、担当者としてはしんどいのです。だから、今回は申し訳ないのですけれども止めさせてもらいました」という話をしたのです。ですから、多分、常石さんがおっしゃっていることと、それは重なってくる話であると思うのです。

やはり、お互いに、構えているところがまだあって、なかなか、「一市民やで」という話にはなりえないのかなと思うのです。そうしたら、誰が間をつなげるかという話を考えていかなければいけないし、今、市役所は、相手を止めた時には仲が悪いように思いましたけれども、そうではなくて、やはり、筋道を通して、きちんと市民活動センターと地域の方々が接点を持てるようなそういう仕掛けを今、考えはじめているところなのです。それと、もう 1 つ、私がなぜあちこちに行かせてもらっているかということ、私のネットワーク同士でつながるということを案外あるのです。だから、地域活動のネットワークにも、私は参加していますし、市民活動のネットワークにも参加しているから、私が両方をつなげることも出来るのです。そういう役割を各地で担わせいただいていると。だから、そういう意味では、市外の人の方が良かったりするのです。そう考えた時に、ここから先は、また、時間をかけて考えていただいたらいいと思うのですけれども、河内長野はどのような順序を踏んで、誰がどのように動いたら、先ほどの常石さんがお抱えになっているような問題を 1 歩でも 2 歩でも前に行けるかというようなところと、そこを考えたいのです。

だから、もう 1 つの懇談会の時に、私は、「河内長野の状況を聞かせてください」という話をずっとしてきたのです。ですから、河内長野には河内長野の流儀というのがあるではないですか。ですから、そこをわきまえておかないと、理想論では、なかなか、地域とか市民活動というのは動いていかないなという気がするのですけれども。ですから、おっしゃるように、どこでも同じ問題が起こっています。

溝端さんはいかがでしょうか。

【溝端委員】

私も、色々な会議に首を突っ込んでいるのですけれども、なかなか、人集めというのは非常に難しいと思っています。根本は人集めだということを常々言っているのですけれども、「人と人とのつながりを大事にしよう」ということを盛んに言っているのです。

色々やっているのですけれども、やはり、趣味を通じての集まりというのが一番集まりやすいということです。例えば、地元で 15 年ほど前に、ゴルフの会をつくってほしいという話が出まして、これは年齢にあまり関係ないということで、「ひとつつくってみようか」ということで、当初は 8 人ほどで会をつくったのですけれども、その後、順次、人数も増えてきまして、毎年 12 月 20 日過ぎの土曜日の晩に反省会をやるということ、近くの集会所を利用して、奥さんと一緒に参加していただいて色々やるわけですね。料理などは、大体がすき焼きで、農家の人も多いので、「君はネギを持って来い」、「お前は白菜を持って来い」と、持ち寄ってやるわけです。そうすると非常に安く上がりますし、お酒は自分達で適時持ってきているし。その席でもいつも言うのですけれども、「人のつながりを大事にしようやないか」と。特に、奥さんについては、年末でサラリーマンの奥さんは、ボーナスをもらってニコニコしていると。その影には、亭主が外で非常

に苦労しているのだからということで、皆の希望もあったのですけれども、毎月 5000 円ずつ、農協から集金に行くから、積み立ててくれということで、それで、年間 6 万円集まるのですけれども、奥さんも気持ちよく出してくれましてね。バスをチャーターして、年に 1 回、秋に 1 泊でツアーをするのです。ちょうど、今年で、コンペも 3 月の中旬にするのですけれども、80 回目ということで、非常に息の長いつながりを保っています。人数も増えまして、今、30 人ほどのメンバーになっているのですけれども、奥さん連中につきましても、非常に良い会だということで、参加を勧めてくれるということで、人数が増えすぎて困っているというような状況なのです。

そういうことで、そういう趣味で集まるのは非常に集まりやすいのですけれども、その他の行事とか、研修会とかいう話になると、なかなか集まりが悪いということで、色々苦労しているのです。特に最近、女性の力が非常に大きいので、お母さん方を集めるには、やはり、子どもを集めないといけないということで、小さい子どもの行事を色々考えてやっているのですけれども。常々思っているのは、やはり、青少年の健全育成が、これが将来を考えると非常に大事なことだと思います。そういうことで、戦後の誤った教育というのでしょうか、今の 50 歳代ぐらいまでの方で、かなり、我々戦前の人間と考えが変わっていますので。特に、防犯の関係をやっているのですが、最近の若い犯罪の状況などを見ますと、人の命などを簡単に考えていますし、ひったくりについてもゲーム感覚でやっているというようなことで、この辺は非常に困った情勢になってきていますので、青少年の健全育成というのは、これからの将来を考えたら、非常に大事だということなのです。

安全安心なまちづくりについては、市民参加グループの方も、去年から一段と力を入れてくれていまして、自治会を巻き込んで、今までは防犯委員会だけでやっていたのですけれども、市民全体に参加してもらって、「安全安心なまちづくりをしよう」ということで、今、取り組んでいただいておりますので、まだ、はじまってからあまり期間もないので、これからの成果が期待されるわけですけれども、そういうことで、とにかく色々な市の施設を出来るだけ利用して、青少年の健全育成については、力を入れていただければいいのではないかと、そういうように思っています。

【久部会長】

ありがとうございます。私は、自治会とかの地域活動をお手伝いしている時に、よく同じ話を聞きまして、「楽しみの会はよく集まるのだけれども」というお話をされているのですけれども、そうしたら、「楽しみの会の最後の 20 分で、堅い話もされたらどうですか」という話をするのですけれども。あるいは、「何か伝達事項があれば、その楽しみの会ごとに、最後の 5 分は伝達事項をやったら、そのお堅い会議が 1 つぐらいは減るんと違いますか」という話は、ちょっと前に、冗談めいてやることはあるのですけれども。

田中さんは、色々なお立場はあるかと思いますが。

【田中（喜）委員】

この会に出させていただいて、市民の方が非常に一生懸命やっただけのお話を聞いて、私は普段、職業柄、市の方にも色々と、自分の思いというものを語らせていただく場があるので、今日は、沢山の意見を聞かせていただく立場で非常にいいのかなと思いますし、先ほど、会長さんがおっしゃっていたような、ちょうど、広い地域でやられていますけれども、私は、会長さんの、ちょうど河内長野版みたいなことをやらせていただいているわけで、河内長野市の色々な会議にかなり出席させてもらいますし、地域の会合、また、寄り合いとかいうものには出させていただいて、今、河内長野市でどのようなことを考えられているのかとか、また、どの地域ではどのようなことをやっているのかとか、色々なことを聞かれるので、最後に、一言だけ時間をいただいて、色々な、「このようなことを今、進めていますよ」とか、また、「このようなことを考えておられましたよ」とか、当然、今回こちらに参加させていただいて、このように色々述べられたことを、このまちづくりについても、「このような意見がありますよ」というようなことをお話しさせてもらおうと、10分間、非常に聞いていただけなので、非常にありがたいのですが、自分の思いというよりも、考えというのは抜きに、皆さん方が話していただいたことをそのままお伝えするという風に、私は考えているわけなのですが、

実際、旧村と新興住宅地区では、がらっと変わるのです。というのは、新興住宅街では、今もおっしゃったように、色々なことをされて、何かを持ってやりたいというのはわかるのですが、いざ、やるという風に決まって出ていっても、大抵、まちの中でするわけなのです。旧村の地域で、環境のいいところでそういう取り組みをしようと言った時に、「勝手なことばかり言ってきて、俺のところは抜きやないか」と言われて、その辺のところを、出来るだけ少なくしようと思って、普段から考えておられることを、地域の方にあちこち行って、喋らせていただくと、その辺のところの動きというのですか、そういったことがよくわかっていただけという風に考えて行動しているのです。

先ほどの白木さんですかね、「ぶらっと行けるようなところ」とか、色々なことをおっしゃっていただいて、「なるほど、若い方はそう言うかな」という風な思いを私なりに持って、私は「工業会」とか、商店街連合会とか、色々なところに参加させていただいているので、そういったところの、「こういう風な若い方々が、このようなところがほしいと言ってはる」と。「何とかご尽力いただけないやろうか」というようなことで思って、色々これからも取り組みをさせていただくので、どんどん意見をおっしゃっていただいて、自分のやりたいこととか、やってほしいこととかを、遠慮なしに言っていただいて、そういったものをここだけではなくて、聞いて他にも伝える者がいるということ、理解していただいて、頑張りたいなと、そういう思いで聞かせていただきました。

【久部会長】

ありがとうございました。12時前になってしまいましたけれども、もう1度、15ページのところの重点施策1、2、3、今日は、2と3を、かなり時間を割いてお話をさせていただきましたけれども、この重点施策を書くにあたって、「もう少し、こういうところを」というのはございますか。あるいは、もう、部会の最後ですので、全体にわたって何か言っておきたいこととか、言い漏らしたことはございますでしょうか。

【田中（喜）委員】

ちょっとよろしいですか。10ページを見ていただくと、ちょうど真ん中よりは若干下の部分ですね、都市基盤の整備というのですか、基盤施設のところで、「地域が有している人的資源を有機的に活用していくことが」と書いているのですが、非常に難しいことで、理解出来ない面も多々あるかなと思うのですけれども、この辺のところに、国土交通省で今、ネットの方でも色々出ていますのですけれども、ミチグシン精神というのが今、出ているのです。だから、こういったところを言っていただいて、この地域の分に、皆様方で、これから行政だけではなくてやっていくのだという、自分達のことは地域でやっていくのだという風なことで、これを何とかいい文面で入れていただいたらと思うのです。とにかく、地域の分を地域だけではなくて、先ほども申し上げたように、他の地域から参加してやるという風なことも、やはり、伝えていきたいと思しますので、その辺のところを、ちょっとこの文言を、うまく整理して入れていただいたら、ありがたいかなと思うのです。

【久部会長】

わかりました。他はいかがでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、部会としてはこれで最後ということになるのですけれども、今日の話を中心にまとめさせていただくと、最初に木之下さんがご提起されたところからお話が進みましたので、多分、一番最初にお話されたところが整理にもつながるかと思うのですけれども、1つは、生活文化とか、身近な文化環境をもう少し見直して、うまく活用するような、そのような施策を重点施策として、取り上げていただきたいなということ。

それから、先ほど、溝端さんもおっしゃったように、子どもを1つの重要な手掛かりに展開をしてほしいなというようなこと。

そして、協働の仕組みの中では、市民同士のつながりをどのようにして充実させていくかということとか、あるいは、先ほど、藤さんがおっしゃったような、せっかくストックがあるのだけれども、なかなか活用しきれていないという部分もあるので、ストックを活用しながら、さらに、市民のつながり、市民と行政のつながりをつくっていけるようにすること、何かそのようなことを重点施策の中に盛り込んでいただければなとい

うのが、この部会の提言かなと思います。

できましたら、この一つひとつの重点施策がバラバラにやられるのではなくて、どこかに集約されて、つながりを持って、メリハリがつく形でやっていただいて、そういう重点施策にしていいただきたいというのが、補足的なお話でお願いしておきたいと思います。

さて、それでは、一応、これで部会は終了させていただきたいと思います。皆様のご協力をいただきまして、私たちの部会は、素案がある程度これでいいという話になったのですけれども、他の部会でどうなっているのかというのは、ちょっとわかりません。ですから、他の部会とのすり合わせも含めて、部会長・副部会長会議で調整をさせていただいて、次回の全体の審議会のところで、この構想（素案）を再度修正させていただいて、皆さんに読んでいただき、また、審議会の中でご意見を賜ればなと思っております。そういうスケジュールでこれから進めて参りたいと思います。

それでは、具体的な次回の日程がどの辺りになるかということで、事務局の方から情報提供をいただけますでしょうか。

【中野企画グループ主幹】

次回の第4回審議会につきましては、3月5日、6日、12日、13日で、現在、調整を進めております。今後、日程が決まり次第、出来るだけ早い段階で、文書でご案内させていただきますので、どうかよろしく願いいたします。

【久部会長】

ありがとうございます。それでは、決まり次第、日程は事務局の方からご連絡いただくということで、お願いしたいと思います。

冒頭にも申し上げましたように、部会で集中的に議論をするということは、これで終了させていただきたいと思いますが、木之下さんも呼びかけてくださいましたように、せっかくの、これだけの皆さん、熱い思いを語り合ったお仲間ですから、このつながりを是非とも、総合計画を今度実現するにあたって、皆さんで持ち寄ってみたいと思います。

それでは、とりあえず、部会の方は以上にさせていただきます。どうも、ご協力ありがとうございました。